

Old Movy をもう一度

マスター用シナリオセクション

■ストーリー

●シナリオ詳細

環境変化型ナノマシンの中で、現在最も注目されていたのがガーブ・オズウェル博士による理論を搭載した、新型ナノプラントである。本来は汚染された土壌の再利用、氷表面上への大地の新設などといった効果が期待される、人類の希望とも言えるものだった。

しかし、その完成が目前に迫り、出資者である軌道の天津家が主張を変え、兵器利用のために技術を流用させるとガーブ博士に要求する。

それを拒んだガーブ博士は、研究データを持ち、書斎にある映画の紙製パンフレットコレクションに、ウェットである妻へ潜伏先を連絡するメモを隠して逃走を開始した。

それを追うために、軌道から天津機関のエージェントである天津征司とムラクモ、そして雪華が下りてくる。

博士は天津機関の追跡を振り切るため、ひとつの策を考えた。

普通に考えれば、日本に関係のある天津機関に追われている自分を助けてくれる人間はいないだろう。

そこで、「仕事で忙しい自分にかわり、休日になるはずだった今日を楽しみにしていた妻に、満足な一日を提供してほしい」という口実を設けてTorTに自身のカゲムシャを頼み、自分を「二人」にすることにした。

加えて、二人の間には暗黙の了解があり、休みにはコレクションのパンフレットを携えて古い映画を見に行く、という約束がある。つまり、妻へ自分の居場所を知らせることもできる。

リサーチフェイスは、雪華が博士の家を家探ししていたトコロに、ニセモノらしいがニセモノとも言い切れないカゲムシャがやってきたところから始まる。

アクトが進むにつれ、フェイトによって正体を暴かれた雪華が逃走し、カゲムシャとの約束を思い出して戻ってくるという展開を経て、天津征司やムラクモと戦うことになる。

●キャストサイド

▼カゲムシャ

カゲムシャとカゲ（雪華）が、互いをだまし合った後、引かれ合う自分を認識しつつも、立場の違いから手を取ることができずに、悲劇的結末を迎える、というおなじみの話が用意されている。依頼型に見えるが、巻き込まれである。流されやすいキャストだとやりやすい。

▼フェイト

N I Cに紹介された依頼人（ニーナ）が、自分と夫を助けてほしいと依頼する。そして、真実を追求するためにカゲの正体をあばき、追い詰めることになる。

▼クグツ

怜呀の命令により、天津機関と戦う。研究所に潜入するなど、トリッキーな行動がある。

▼トーキー

研究所に共に訪れる予定だった友人のトーキー（ニーナ）が現れない。そして、研究所はモノモノしい雰囲気取材拒否状態となっており、そこには知り合いのクグツがいる。何かあるという直感から動くことになる。

■NPC 一覧 【戦闘使用神業(即死/防御/万能)】

ガーブ・オズウェル博士	:		
タタラ	=	タタラ◎/クグツ●	[0/3]
ニーナ・オズウェル	:		
トーキー◎/ミストレス●/フェイト			[0/3]
雪華	:		
カゲ◎/ハイランダー●/ニューロ			[0/3]
天津征司	:		
ハイランダー◎/エグゼク●/タタラ			[2/3(0/0/1)]
ムラクモ参式	:		
クグツ◎/アラシ●/カプトワリ			[2/3(1/0/0)]
ムラクモ肆式	:		
クグツ◎/カプト●/カタナ			[2/3(1/1/0)]

■こぼれ話

このシナリオは「Old Movy をもう一度」というタイトルにもなったフレーズと、TorT 社というオーガニゼーションから浮かんできたシナリオである。

タイトルには二つの意味があり、シナリオ中でカゲムシャに対して雪華が約束する一言と、このシナリオが使い古された映画のネタをN◎VA風に再演するというコンセプトから作成されたことにある。

■プレアクト

アクトトレーラーとハンドアウトを読み上げた後にキャラクターの作成を行うこと。

シナリオ開始前にそれぞれの立場やキャラクターを確認して自己紹介を行う。その自己紹介に合わせて、それぞれにキーカードを配ること。

必要場合はキー効果についても説明する。

自己紹介を終えてから、今回予告を再度読み上げる。

▼シナリオデータ

- 想定プレイ時間4～5時間
- 想定プレイヤー3～4人
- 3人の場合はトーキー枠を削ることを想定している。

▼クグツ

このクグツはストレイライト掲載の「遠き追憶」で使ったキャストを継続すると、より深いシナリオとなる……かもしれない。

Old Movy をもう一度

マスター用シナリオセクション

SCENARIO SECTION.